

私たちの町議会 りくべっ

No. 90

発行月日・平成29年11月17日
編集・議会運営委員会
発行・北海道陸別町議会

9月定例会

陸別町議会 9月定例会は、9月12日から25日まで、その内の4日間開かれました。今定例会では、委員の選任について1件、条例案4件、補正予算案6件、意見書案2件、発議案1件、その他4件を可決し、平成28年度決算、全7会計を全て認定し、閉会しました。

今年度の普通地方交付税額が固まる

～見込額を下回り歳入予算を減額～

平成29年度 補正予算審議から

○地方交付税（歳入予算）
△1千60万円

減額の要因は。

A これまで特別に加算されていた、地方の雇用対策分が大幅に減少したことが大きく影響した。

また、過疎対策事業債（過疎債）の償還額の減少も影響し、陸別町は十勝で一番の減少率となる、前年度比7・6%減となった。

Q 国が地方交付税で、償還額の7割を負担してくれる有利な過疎債を、投資をするという観点からも、もっと積極的に利用すべきでは。

A 国の補助メニューを活用すること、町が発行する地方債を過疎債などの有利な起債でまかなうことは、当然のこととして常に実行している。

地方交付税とは

まめ辞典



地方公共団体間の財政不均衡を是正し、必要な財源を保障するため、国から交付される資金。財政不足額から算定される普通地方交付税と、災害時などに交付される特別地方交付税があります。陸別町の平成28年度決算では、一般会計収入の50%弱を占めています。

○町有林拡大事業（山林購入）1千268万円

Q 購入した山林の樹種と、今後の管理方針は。

A アカエゾマツ11・76ha、トトマツ13・11ha、カラマツ7・32ha、その他未立木地などを含めた全体の面積は約56・52ha。

今後は町有林経営計画に組み込み、間伐や未立木地への植栽を順次していく。

○荒廃農地等利活用促進交付金 199万円

離農などで生じた耕作放棄地を、一定の条件を満たした新たな農業者等が土壌改良などの整備をする際に、町を通して国からの交付金が支払われる事業。

平成29年度 各会計補正予算

会計名	補正額	総額
一般会計	6,324万円	46億5,955万円
特別会計	国保事業勘定	5億0,734万円
	国保直診施設勘定	3億1,904万円
	簡易水道事業	1億8,429万円
	公共下水道事業	1億9,906万円
	介護保険事業勘定	2億9,916万円

平成28年度 決算認定質疑

○街路灯LED化
658万円

Q LED化の進捗状況は。

A 街路灯は182基あり、平成28年度末において83基が改修済みで、進捗率は46%弱となっている。

○十勝バス・北見バスの利用助成 293万円

Q 町から運賃の3分の2が助成される事業だが、高齢者でもバス車内で記入しやすいよう、申請書を簡明にし、記入事項を減らすことはできないか。

A ご苦勞をおかけしているかもしれないが、助成する上で最低限必要な事項の記入をお願いしている。
記入する欄を大きくしたり、文字を見やすく工夫することを検討したい。



▶背中から腰回りに着用している器具が「マッスルスーツ」です。

○介護ロボット導入支援補助金 91万円

Q 効果が期待される事業だと思つが、どのように活用されているのか。

A しらかば苑で、寝たきりやそれに近い方の機械入浴介助に使われている。要介護者をストレッチャーと入浴ベッドを移乗する際に、「マッスルスーツ」という器具を職員が装着することにより、腰の負担が大幅に軽減されている。

○教員住宅の建設 3千864万円

Q 今後の教員住宅整備の見通しは。

A 平成27年度から東一条二区の5棟10戸、下陸別の3棟3戸について、計画通りにいけば、平成33年度までに、建て替えが完了する予定。

○林業従事者への奨励金（町負担額）196万円

Q 林業・林産業従事者に対し、年末に一時金として支払われる制度だが、若い担い手の育成を図る観点からも、就労者の掛金を町が支援できないか。

A 全道で実施されている事業に、陸別独自の事業により対象者を拡大している。
各界との協議が行われてきた事業でもあり、その点も踏まえて検討したい。

平成28年度 各会計の決算の状況

(単位：万円 千円以下端数処理)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引余剰金	繰越明許費繰越額	一般会計からの支援額	実質に近い収支	
一般会計	49億0,778	47億8,250	1億2,528	2,795		9,733	
特別会計	国保事業勘定	4億9,445	4億7,854	1,591	0	0	1,591
	国保直診施設勘定	3億9,104	3億7,359	1,745	0	1億0,866	△9,121
	簡易水道事業	1億9,238	1億8,796	442	0	3,155	△2,713
	公共下水道事業	1億4,319	1億4,053	266	0	8,555	△8,289
	介護保険事業勘定	3億0,480	2億9,538	942	0	0	942
	後期高齢者医療	3,984	3,984	0	0	0	0

決算認定質疑



○学校給食事業（賄材料費） 1千290万円

Q 地元業者からの購入割合はどのくらいで、どのような食材か。

A 平成27年の事業開始当初から、なるべく地元業者から購入するように努めている。平成28年度の地元購入割合は44・4％で、他市町村と比較すれば高い方だと考えている。

購入単価の兼ね合いで、パン・麺類・米などの主食は町外から購入しているが、生鮮食品は町内の2つの業者から主に購入しているほか、北勝光生会のベーコン、ソーセージ、りくべつ低温殺菌牛乳、陸別産の野菜も使用している。

○児童・生徒の給食費無料化 731万円

Q とてもよい施策だと思いが、日本国憲法に義務教育の無償がうたわれている事から、本来、当然に国が負担すべきものと考えます。国に陳情すべきではないか。

A 無償化について、現在国が調査中であるが、本来国がすべきと感じる部分もあるので、訴えかけていきたい。

委員の選任

公平委員会委員に、森よし子さんを選任することに同意しました。

(再任)

可決した意見書

○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

○「全国森林環境税」の創設に関する意見書

条例・その他の審議結果

件名	審議結果
●町道路線の認定について	可決
●北海道市町村総合事務組合規約の変更について	可決
●北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について	可決
●北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について	可決
●陸別町高齢者共同生活支援施設条例の一部を改正する条例	可決
●町税条例の一部を改正する条例	可決
●陸別町営住宅設置条例の一部を改正する条例	可決
●陸別町営住宅管理条例の一部を改正する条例	可決
以下議長発議	
●議員の派遣について〔委員会合同道内視察（苫小牧市、江別市、夕張市）〕	可決

一般質問

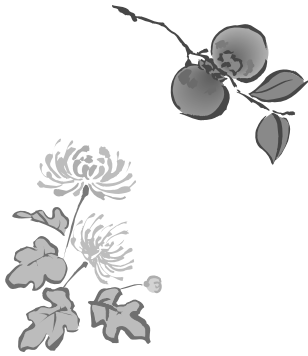
9月定例会では4人の議員が一般質問を行い、町政を問いました。その内容を要約して掲載します。

本田 学 議員

人材確保に向けた町の取り組みを

Q 各業界では、人材の確保のため、外国人研修生の受入れなどが、それぞれが努力しているが、行政が町全体の取り組みとして、研修会の実施や都市部でのPR活動の強化ができないか。

A 本町でも各産業、業種を問わず人材が不足していると認識しており、これまで移住者等に対応できるように住宅対策などに取り組んできた。今後、担い手対策委員会を組織する予定となっており、その中で協議も踏まえ進めていく。



子どものスポーツ活動の現状と支援について

Q 中学校野球部の現状とスポーツ活動の町外団体への所属状況は。

A 野球部は、今年の夏の大会を最後に足寄町との連合チームを組まないことになったが、3年生の3名が他のチームに所属し、野球を続けている。

また、1年生の3名は、入学後、町外の野球チームに所属している。空手では、小学生3名、中学生1名が帯広市の道場に通っている。

Q 町外に通う子ども達に対する支援を考えると、町外に通う子ども達にないか。

A 部活動のあり方について検討中であるが、教科外の自主的な町外活動に対する公的支援は対象者の線引きも困難であり、難しいと捉えている。

Q 子育て支援の取り組みの一環としての町長の判断を。

A スポーツに限らず子ども達の選択肢は多いことが望ましいが、現状としては、部活動の種目も検討しなければならぬ時期ではないか。学校や教育委員会などの意向も踏まえ考えていく。

久保広幸 議員

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画等の改定に向け町長の所信を伺う

Q 現計画において、在宅医療・介護連携推進事業が地域支援事業に位置付けられ、陸別診療所と連携し、住民にとって医療・介護を身近に相談できる窓口を確保しているが、どのように行われているか。

A 野尻町長 特に、看取り介護の推進に当たっては、診

療所の役割が不可欠である。関係機関の連携は進んでいるが、医療・介護の相談窓口が地域包括支援センターであることについて、住民周知が十分でなく、周知、啓蒙を図りたい。

Q 現計画期間中に施設整備の必要性を検討することになっているが、要介護1・2の方に対応する施設や現存する特養施設の老朽化も踏まえ、考えを伺う。

A 町長 小規模多機能型施設について、地域包括ケアシステム推進会議で意見交換を行っている。人材の確保、収入が見込めないなどの理由で、設置困難との共通認識があるが、施設がないために町外への転出を余儀なくされている方や特養入所を待たない要介護1・2の方の支援を考えると、特養の整備については、当該法人との話し合いになるが、今のところ相談は受けていない。

「次のページへ続く」

一般質問



Q 平成30年度の介護保険事業計画の改定に合わせ、介護保険料の見直しが行われるが、基金残高を考えると引き上げが予想される。低所得者に配慮した保険料率段階を設定できないか。

(町長)

A 特別の必要がある場合には、保険料率の設定が認められているが、本町の保険料の段階は、現行どおり9段階で行う考えである。

Q 介護保険料の減免について条例の規定があるが、昨年火災で焼失した福寿荘の入所者等、徴収猶予、減免の対象者はいるのか。

(町長)

A 福寿荘の入所者に対しては、お見舞金で家財等の補填に充てていた。徴収猶予、減免を行った実績はない。

Q 介護保険及び障がい福祉関連の来年度の改定において、地域共生社会の実現に向け、新たに介護と障がい福祉サービスを一体的に提供する「共生型サービス」が介護保険サービスの一類型として創設される。本町の次期計画に組み入れるのか。

(町長)

A 65歳以上になっても住み慣れた事業所で、高齢者と障がい者が、共にサービスが利用できる場所が必要だと感じており、事業所や利用者の意向を聞き考えたい。

渡辺 三義 議員

町職員のメンタルヘルス対策について

Q メンタルヘルス対策として、法律の改正によりストレスチェックが義務化されたが、町職員の実施結果を伺う。

(野尻町長)

A 自身のストレスへの気付き、医師の指導を仰ぐことで、「うつ」などのメンタル不調者の発生を未然に防ぐこと等を目的として、50人以上の労働者を雇用する事業所は、毎年行うことが義務付けられた。

昨年度、町職員98名中、94名が受検したが、その結果を町が承知するためには、本人の同意が必要となる。高ストレス者に対しては、配慮が必要となるが、町への結果報告に同意のうえ、医師の面接を受けた職員はなかった。今後も受検・受診を進め、メンタル不調の未然防止に役立てたい。

Q 職場の会議、町長と職員のコミュニケーションの機会づくり、職場の環境改善に向けた取り組みは。

(町長)

A 課長等会議又は管理職会議については、月1回程度実施している。昨年度、課長等と一人ひとりで意見交換をする機会を

設けたほか、看護師、保健師、保育士との懇談を行うなど職員との会話に努めている。

職員の安全や健康管理のため、衛生管理者1名、産業医3名を選任しており、昨年3月には、「元気な職場環境の作り手になるために」というテーマで職員研修会を開催した。

国保被保険者の特定健診・特定保健指導の状況は

Q 生活習慣病等の予防のために実施している特定健診、特定保健指導について、国保の現状を伺う。

(町長)

A 40歳以上の被保険者が対象となるが、昨年度、特定健診は、目標値55%に対し、実績69・7%、特定保健指導は、目標値55%に対し、実績75%となっている。

実施率向上のため、昨年度から町単独事業として、個人負担となっていた1千500円を無償化している。

〔次のページへ続く〕

一般質問

谷 郁司 議員

銀河の森地域の整備について

また、一般検診として、30歳から39歳までの被保険者について、3千5百円の個人負担を2千円とする独自の支援を行っているが、入院費の減少もみられ、成果を感じている。

ピロリ菌検査・脳ドックへの支援を

Q 除菌により胃がんの発症リスクが軽減されるピロリ菌検査、脳疾患の早期発見のため脳ドックへの助成をはいかがでしょうか。
(町長)

A ピロリ菌の検査については、現在、国において検討中でもあることから、管内状況もみながら判断していきたい。

脳疾患の要因としては、高血圧、高コレステロール、肥満、喫煙、飲酒と言われている。

特定健診、特定保健指導の中で対応していく考えであり、脳ドックへの助成について、現時点では考えていない。

Q 銀河の森整備の経過と位置づけをどう捉えているか。また、利用状況の概況を伺う。
(野尻町長)

A 現存していたイベント広場と共に、平成5年から銀河の森天文台、コテージ村を建設し、周辺の町有林整備を行っている。

区域面積は194ヘクタールあり、本町の観光拠点として、しばれフェスティバルを始め、オフロード・ラリー関係、サマイン、コンサートなど町内外の人に幅広く利用されている。

コテージ村は、平成28年度909棟、稼働率35・6%と開設以来最高の利用をいただいたが、天文台は、天候も影響して、8千45人と最も少ない入館者数となった。

Q 今後、この地区について、どのような整備

を計画しているのか。子ども等が宿泊できるような研修施設も必要ではないか。
(町長)

A 町有林約153ヘクタールのうち、カラマツのキクイムシ被害地の伐採と植栽が必要となっている。

また、開設以来20年以上経過し、望遠鏡の反射鏡など、老朽している設備の更新、施設の補修などが見込まれる。

現在は、職員が学校へ出向いて出前授業を行っている。観光、イベント事業全体を見据えて、整備を考えていきたい。

Q コテージ村、天文台を周回する経路上に「森と水辺のやすらぎゾーン」もあり、サイクリングロードなど有効活用を図るべきでは。
(町長)

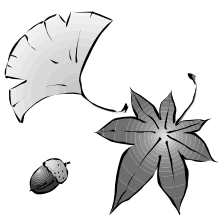
A この箇所は知っている方も少ないと思っっている。活用方法について、検討してみたい。

Q 森林の伐採跡地や周辺を、町木の白樺、桜、広葉樹、花、薬草など、町民の協力も得ながら整備してはどうか。
(町長)

A 伐採箇所については、樹木を植栽する。景観の整備には伐採箇所の位置なども関係するので、調査してみたい。

Q 滑り台やワイヤーロープに吊り下がって滑空するエアトリップなどの遊具設置、森林ガイドの養成、施設利用者へのアンケートの実施が必要と考えるが。
(町長)

A 自然を壊さない範囲での整備を考えているが、フィールドアスレチック的な施設、アンケートについて検討したい。森林ガイドについては、町独自の養成が必要と考えている。



委員会合同道内視察報告

9月27日から28日までの2日間、議会議員7名、事務局2名、副町長及び産業振興課主幹の同行をいただき、視察を行いましたので、本紙で報告します。

○Jファーム小牧

報告者 谷 郁司

Jファームは3種類の



近代的な施設・設備を視察した感想は、「農業」と言うよりは、「工業・工場」のイメージです。

▲熱利用により、冬期間も含めた通年の栽培が可能になっています。



エコエネルギーを利用、ガスタービン熱、バイオマス(木クズチップ)熱、温泉水のヒートポンプ熱を野菜栽培の熱源として、ベビリーフ(小松菜等)12種類の幼葉菜)を水耕栽培し、ミニトマトも水耕栽培で、できる限りの低水分により糖度(12〜13度)を上げていて、ハ

ウス栽培をコンピュータで監視・管理している。生産物は、道内はもとより、東南アジアにも輸出している。

各議員は熱源のバイオマス等の補助金の流れや販路の確保、採算性について聞き取りし、視察しました。

○江別市(有)小林牧場

報告者 渡辺三義

平成22年度施工(担い手事業)でフリーストール牛舎、搾乳牛300頭の嫌気性発酵施設バイオガスプラントを設置。

1日の処理量29m³、発生バイオガス1日600m³、1日の電力1千500kwを売電。

消化液の利用は、液分は圃場散布、固形分は敷料に利用。

乳製品事業も経営され、「さわやか牛乳」、ヨーグルト、手作りカマンベールチーズ等も手掛ける(有)小林牧場を見学しました。

▲牛の敷料用「固形分」からの悪臭はありません。家畜糞尿からバイオガスを取り出した後の残渣物は、「液体肥料」と「固形分」に分けられ、再利用されます。



○夕張市視察

報告者 久保広幸

9月28日(木)、夕張市において「コンパクトシティ構想」について研修してきました。

夕張市は今、新たな財政再生計画に基づいて「夕張市まちづくりマスタープラン」に取り組みであり、人口減少社会の

モデルとして注目されておりあります。特に、財政再生一辺倒から、地域再生との両立に向けた施策を押し進めており、このことには大きな行政判断があったものと考えられます。

この「コンパクトシティ構想」も、そのひとつであります。この背景には、夕張市が財政再生団体になったこともさることながら、元々炭鉱の開発により山あいに開かれた街であり、平坦地が少なく、石炭産業以外の産業基盤が乏しい特殊な事情があったことのお話がありました。南北35kmに及ぶ居住地を四つの地区に集約し、更には拠点となる地区に都市機能を整備しようとするものであります。

このことは、当町を含め、多くの自治体が辿らなければならない途になると、痛切に感じた研修でありました。

「次のページへ続く」

○夕張市少数議員での 議会運営について

報告者 山本厚一

厚谷議長ほか、議員、市職員との研修を行った。市議会は9名、行政常任委員会は議長以外の8名で、一委員会で行っている。

現在、財政再生団体として切り詰めた市政運営を続けているなか、常任委員会が一つなので、8名の議員が一つの議題を討論でき、まとめやすいメリットがある。

デメリットとしては、広く浅くなってしまうので、一問題を深く検討できない悩みがある。また、一委員会ですべて審議されているため、本会議では異議なしとなり、傍聴者から何も議論していないと思われがちとのこと。以下、要点のみ記載する。

・次期改選から定数一減の8名の議員となる。

- ・議会運営委員会は正副議長を除く7人。
- ・新年度予算審議については行政常任委員会に付託。
- ・議会事務局職員は4名で、監査委員事務局を併任。



▶夕張市議会議員、夕張市職員の方たちと、総務常任委員会は「コンパクトシティ構想」について、議会運営委員会は「少数議員会における議会運営について、それぞれ意見を交換し、研修してきま

▲JA陸別町にて



産業常任委員会報告

9月8日、JA陸別町との懇談会を実施し、平成29年度農業生産等の状況、集合型搾乳施設整備事業、家畜糞尿バイオマス事業の進捗状況などについて説明を受け、意見を交換しました。

集合型搾乳施設の整備は、酪農家の長時間労働の解消につながるものとして期待されています。今後、引きつづき調査・研究することになっています。

議会の動き

- 【7月】
 - 21日 議会運営委員会 (広報編集会議)
 - 委員会合同会議
 - 【8月】
 - 22日 議会広報研修会 (札幌市)
 - 【9月】
 - 1日 議員協議会
 - 8日 議会運営委員会 産業常任委員会 (JA陸別町との懇談会)
 - 12日 9月定例会 議員協議会 総務常任委員会 産業常任委員会
 - 13日 9月定例会
 - 22日 9月定例会
 - 25日 9月定例会 議会運営委員会
 - 27日～28日 委員会合同道内視察(苫小牧市ほか)
 - 【10月】
 - 20日 議会運営委員会 (広報編集会議)
 - 【11月】
 - 25日 総務常任委員会 (町内視察)
 - 6日 産業常任委員会 (町内視察)
 - 7日 十勝町村議会議長 会主催研修会 (更別村)
- 次回の定例会は12月に開催されます。
詳しい日程等は議会事務局にお問い合わせ願います。
皆さんの傍聴をお待ちしております。

陸別町議会 ホームページ のご案内

一般質問の録音を聞いたり、会議録などの閲覧ができるようになりました。

【陸別町議会ホームページ】

<http://www.rikubetsu.jp/gikai/>

